

編集発行人 小山長雄
発行所 社団法人千曲会

長野県上田市常入 信州大学繊維学部
振替 長野 6243, 東京 43341
電話 上田(2)1215(代表), (2)1218(直通)



賀 喜

新春におもう

社団法人千曲会理事長 小林 運 美

選ばれてふたび私は千曲会理事長の席をけがすことになりました。どうぞよろしく願いいたします。

ことは母校にとっても、千曲会にとっても近未来に重大な期に遭遇したように思えます。

母校の将来については母校みずからがお考えになり、よい回答をだしてくれるにちがいありませんが、私たちもまたその行く末を対岸の火災視するわけにはいきません。あるいはオセカイなのかもしれません。しかし、母校に興味をもち、よかれと願うことを拒否される理由もまたありません。ほんとうはそういう人が多いほどたのしいと私は思うのです。ただ、私たちは振幅のきわめて大きい社会

層と年齢層から構成されており、そこからは、なかなかまとまりのある意見がでにくいことを自省せねばなりません。いっぽう、逆に渦中から独立しているが故に、あるいは数という潜在力があるが故にすばらしいアイデアも期待でき、支援も

できるというものです。

昔から母校と千曲会とは車の両輪・紙の表裏の如しなどといわれてきました。気持としてはその通りであり、会の素質もまた不即不離の関係にあります。方法としては一線を画するという態度

をもつてのぞむべき筋合いのものと思われまふ。熱すれば融け、激すれば砕ける世のならい、本会こそは渦中において渦中に入らず、あたたかくしてしかも冷徹に物を見る眼を提示し、母校発展の具現に協力したいものです。

酉に水をやると酒になるといいます。ことしの「エト」はどうかや酒に縁が深いというケであります。ぜひそうあって欲しいものと心から願っております。

(筆者：こばやし・かずみ、糸16)



挿図は近藤日出造画伯の筆になるもので、世界平和を祈念する姿を諷刺したものと思われまふ。

(提供、小山長雄氏)

インドネシア蚕糸業の歴史の概要

勝 又 藤 夫

Drs. Unusその他の人々の記録によればインドネシアには既に18世紀頃から原始的養蚕業が行われていた。SumatraのAtjehやPalembang, 西部JavaのGarutやMadjalengka, 中部JavaのSalaやDjemberはインドネシアの養蚕業の発祥地であり, Makassarは絹織物業の発祥地である。

第二次世界大戦以前には各地でインドネシア国民により小規模の養蚕が行われた。即ちGarut (Tjilkadjang, WanaradjaはGarut県内の地域), Sala, Djember, Atjeh, Mandar, Silungkang, Bugis, Makassar, Sambas, Samarinda, Bali等は養蚕地であった。これらの中著名なる養蚕(試験的の養蚕)は日本人による次の様なものである。即ち, 1923年~1925年頃, 大谷光瑞師がGarutで養蚕を試み, 松本氏がSumatraのTjurup Benkuluで試み(これは後に片倉の小山氏により引続かれた)。根本氏がSalaのWonogiriで養蚕を試みて織物を作りJogjakarta市で一般人に展示した。他方1932年頃宮地寛道氏がSulawesiのMenadoで養蚕を試みた。これらの試験は何れも成功したが周囲の事情(主に政策的事情)で中止されてしまった。

因に桑は早くからオランダ人によりジャムの原料として果実を収穫するために移入され, インドネシア各地に繁茂しておった。桑の種類は大部分 *Morus nigra* であった。

PenjutanとかMadjalengkaと呼ぶ地方名は何れもその地方の住民が古くから養蚕を行ったのでSutra (Silkのインドネシア語)に因んで付けられた地名である。

第二次世界大戦中, 日本軍に占領される様になってからは上記の政策的事情は全く変わった。即ち日本の軍政府は西部Javaの2地区 (SumedangのTjimalaka及びGarutのWanaradja)でインドネシア青年に養蚕を教えた。この時に飼育されたのは普通の家蚕とエリ蚕の2種であった。

日本軍が敗れてからは, インドネシア全国民の努力はオランダ植民政府からの独立を勝ち取ることに向けられた。従って蚕糸業勃興の気運もおとろえた。

因にその後現在迄のインドネシアの養蚕家は極めて小規模で原始的のものであった。即ち各戸の養蚕家は家の周囲に僅かの桑園(1~2アール程度)を持ち, 1回の蚕卵掃立量は3000粒~5000粒で(即ち10蛾~15蛾分の卵)あり, 蚕品種の改良も行われず1戸の農家の繭には, 白色繭, 黄色繭, 緑色繭を混ざるを常とし収繭量も掃立

蚕の10~40%の繭を収める。産繭器にて各自繰糸し, 生糸は100瓦でも200瓦でも仲買人により買集められ, 主にMakassarへ送られた。

改良した養蚕が始めてJava島へ輸入されたのは3人の日本人による。即ち1953年5月石居氏(現在の日本インドネシア協会顧問), 小山氏, 内藤氏はMr. Laoh W.の協力の下にBandungで日本から持参した蚕の飼育を試みた。この仕事は翌年(1954年)内藤氏とKosasih氏(Bandung在住者, 1966年死去)の協力の下にTjisaruaへ移された。又この仕事は1961年になりAckub氏(Sukabumi在住者), Machdar氏(Garutの人)により協力されるに至り, 始めて改良された蚕品種が改良された方法により飼育されたのである。

インドネシア民間人養蚕協会が結成され第1回総会がBandungで開かれたのが1961年であり, その第2回総会は1962年Makassarで, 第3回総会は1964年Bogorで, 第4回総会は1966年9月Jogjakartaで開催された。

又この頃より科学者による蚕糸研究が始められた。即ちBogor農科大学, BandungのPadjadjaran大学のTechnological institute, JogjakartaのGadjah Mada大学林学部, 北Sumatra大学等で研究が始められた。

前の林業省のSeudjarwo大臣(現在農林省林野庁長官一政府組織の改正により林業省は農林省に含まれて林野庁となる)が一般蚕糸行政を司るがその顧問としてSukabumiのAckub氏と, JogjakartaのGadjah Mada大学林学部長Sudarwono博士が任命された。

又復員軍人省では後述のTjiawiの製糸工場, 絹織物工場, 染色仕上工場とそれに附属の桑園約1,000ヘクタールを持ちBogorとSukabumiを中心として蚕糸業の開発を試み, 他方, 民間工業省ではBandungの織維試験場を中心にしてLembang蚕種試験場を持ち, 蚕種の改良から絹織物の改良に向っている。

養蚕開発は以上の如くであるが, 前述のAckub氏は蚕の絹糸腺或は絹糸から外科医の手術糸を作り目下病院へ供給している。

1963年復員軍人省大臣Sambas少将は養蚕の開発, 製糸, 織物工場建設を決意し, Bogor市のTjiawiに日本商社江商株式会社の手を経て, 後述の規模の工場の建設に着手した。その後Sambas少将はルーマニア大使に転じ後任の復員軍人大臣Sarhini中将はその仕事を継承し, 1966年8月に完成せしめた。

1965年7月末日本のColombo計画技術者として勝又

藤夫が桑栽培、蚕品種改良、飼育法の改良の為インドネシアに派遣された。彼の赴任によりインドネシア蚕糸業は始めて科学的の路線を進むことになった。即ち彼は2ヶ年の任期の間（設備の関係で彼は大部分 Bogor の Tji-aw i に滞在した）に桑園の土壤検定、肥料の標準量の計算、土性改良に緑肥及び石灰施用の必要、磷酸及び加里肥料の必要性、桑の種類と比較並に優良種の選定、桑の病虫害の2〜3種類の性質を調査或は説明し、他方では現地の蚕品種を改良して日本種との1代交雑種を作り、蚕品種の改良による著しき進歩を指導し、微粒子病の防除を完成し（現地種には約40%の病気の母蛾があった）飼育法の改良特に稚蚕飼育法の改良、補温の必要を述べた。

この1代交雑種製造上重大な問題が起きた。即ち熱帯地方では改良された日本2化蚕の1代雑種の飼育が困難な為、現地の多化蚕と日本2化蚕の間の1代雑種を作るのであるが、インドネシア多化蚕と日本2化蚕の交雑種の化性が母親遺伝を示さないで、インドネシア多化蚕母体の卵は休眠卵となり、浸酸処理を施す必要がある。即ち従来の蚕糸科学の教える所と一致しないのであった。後で詳しく調査して明かにしたが、インドネシア多化蚕と日本2化蚕との交雑種は母親遺伝現象を示さないが、明瞭なメンデル遺伝をする。——この問題は1代雑種製造に直接関係することで実用上極めて大切な現象であり技術者の立場上非常に苦しい期間があった。

兎に角彼の2ヶ年間の仕事によってインドネシア養蚕業は一応科学的経営が出来る所まで進歩した。勿論日本と異なる土壤であり、肥料成分の欠乏が甚だしいこと、スコールによる桑園土壤のErosionの防止、緑肥の栽培特に根瘤菌の接種、桑の病虫害の対策、蚕品種の改良或は改良進歩した技術の普及等今後の問題は多い。

Java島の桑園面積

1966年9月 Jogjakarta で開かれたインドネシア民間人養蚕協会の報告によれば Java 島の桑園面積は次の如くである。

西部ジャワ	——	1,592	ヘクタール
中部ジャワ	——	1,965	〃
デョクダヤ特別区	——	2,000	〃
東部ジャワ	——	300	〃

（註—統計が時により異なる Jogjakarta の Gunung Kidul には桑園予定地4,000ヘクタールあり、相当面積が植付けられている）

もし上記の面積の半分が仮に植付けられたとしても大体3,000haの桑園が現在あり、1ha当り5トンの桑葉を生産するとしても全収葉量は15,000トンで収穫量は750

トンと計算される。

Tjiaw i の製糸織物工場

復員軍人省により建設された Tjiaw i の絹工場は繰糸工場（自動機600緒）、絹織物工場（自動絹織機100台）、染色仕上げ工場と連続している。

繰糸工場の規模及び所要原料繭等

- (1) 自動繰糸機（プリンス自動繰糸機）——600緒
600緒の繰糸機に相当する乾繭機（大和三光式）、煮繭機（千葉式）、再繰機及び仕上げ機及び副蚕処理機を設置する。
- (2) 生糸生産目標額並に所要原料繭量（年間数量）

	生糸生産額	原料繭量(生繭)
1日8時間運転の場合	55トン	365トン
1日2回運転の場合	110トン	730トン
- (3) 所要桑園面積
1ヘクタール桑園の年間収葉量5トンとし、繭1kg生産に要する桑葉量を20kgとすれば365トンの原料繭を生産するには桑園1,460ヘクタールを要する。
- (4) 所要蚕種量
交雑種1蛾分の卵で400瓦の繭を生産すると仮定すれば365トンの繭を作るには912,500蛾の蚕卵を要する。又1蛾の卵で300瓦の繭を生産するとすれば1,16,700蛾の蚕卵を要する。

Jogjakarta, Malang 及び Makassar に建設される製糸工場の規模

この3ヶ所に建設される製糸工場は Prince 自動繰糸機で各80緒の規模である。勿論自動繰糸機に相当する乾繭機、煮繭機、再繰仕上げ機及び副蚕処理機を併設する。

洋風あんみつ 宝石箱の店

パフエ **K O D A M A**

上田ショッピングセンター
T E L (2) 4 4 2 5

都会的なデラックスムード 暖房完備

麻雀クラブ **牡丹**

1人1時間 40円

上田市横町(東横劇場前)
T E L (2) 8 0 5 0

小湊潔博士（糸4回）

勲三等瑞宝章受賞さる

小湊潔博士（糸4回・理研工業株式会社取締役社長）は、永年の「アリウム属植物の研究」により、今年11月勲三等瑞宝章を受賞の榮に浴されました。博士永年のご研究の成果が認められましたことと同博士のお喜びはもとよりですが、同窓会からこの様な立派な方が出られたことは同窓会としても極めて喜ばしく且つ名誉なことであり、広く会員の皆様にお知らせすると共に、心からお祝いを申し上げ、今後益々ご活躍をご期待して止みません。

（竹田寛記）

同博士は一面、絵も極めてお上手で、かくれた才能をお持ちで、研究で出張の際は必ず車中でスケッチした葉書を下さいます。

その1枚をご紹介します。



江野村一雄氏（紡7卒）

黄綬褒章を受賞

社団法人山陽技術振興会副会長江野村一雄氏は多年科学技術振興団体にあって常によく科学技術普及奨励に努め、その発展に尽力した功績により11月21日科学技術庁から黄綬褒章を受賞された。江野村氏は先に山陽新聞文化賞を受賞されるなど重なる榮譽に対し心からお祝い申し上げます。今後ますますご自愛の上で発展ご活躍のほどお祈りします。

江野村さんは又本会理事で山陽支会長として、そして岡山、広島、山口3県の会員各位の良い相談相手であります。

（編集部）

昭和42年度上田繊維科学振興会助成・成果報告

高分子溶液の機械的変性に関する研究

山 浦 和 男

絹糸の形成過程は、絹フィブロイン水溶液が、 $\dot{\epsilon}$ ずり応力、あるいは伸張により急激に凝固結晶化する単純な力学過程で、すなわち機械的作用による蛋白質の変性（機械的変性）である。

合成高分子であるポリビニルアルコール（PVA）の水溶液に、 $\dot{\epsilon}$ ずり応力を加えると絹フィブロイン水溶液と同様に繊維状凝固物が析出することを知ったので、機械的変性の機構を明らかにしようとして立体規則性の異なる種々のPVAを用い研究を押し進めた。

まず、PVAの水溶液中での溶解状態の精度的研究から、機械的変性の挙動を研究するのに、ポリマー濃度が数%から10数%が適当ではないかと結論を得た。

Hercules High Shear Viscometer を用い、 $\dot{\epsilon}$ ずり応力によりPVA水溶液からポリマーが析出する $\dot{\epsilon}$ ずり速度すなわち臨界 $\dot{\epsilon}$ ずり速度を求めた。その結果、臨界 $\dot{\epsilon}$ ずり速度は、ポリマー濃度、重合度およびシンジオタクチック性が高いほど低いこと、測定温度が低いほど低いことおよび $\dot{\epsilon}$ ずり速度の上昇速度が小さいほど低いことを明らかにした。

種々のビニルエステルから誘導された立体規則性の異なるPVAの水溶液からの $\dot{\epsilon}$ ずり応力による析出量を測定した結果、三フッ化酢酸ビニルから誘導されたPV A（VTFA-PVA）の析出量が一番多く、機械的変性の研究に一番適合した試料であることが結論づけられた。水に対する溶解温度、水溶液ゲルの融解熱を測定したところやはりVTFA-PVAが一番高く、また、ヨウ素との呈色反応からも600 μ 付近の吸光度が一番高かった。これは、変性がPVA分子の立体規則性時にシンジオタクチック部分のsequence lengthの分布状態が機械的変性に大いに関係するとの考えに到った。

PVAは、その水溶液に $\dot{\epsilon}$ ずり応力を加えることにより逐次分別され、その分別物の諸性質の測定結果からこの分別は、特にシンジオタクチック部分のsequence lengthによって行なわれているとした。

本学高分子研究所、近藤慶之氏によっても絹フィブロインの構造に近いポリアミノ酸系の合成物について研究が押し進められている。

我々の研究の最終目的の一つとしては、合成高分子で機械的変性の機構を利用して蚕のごとく紡糸（機械的変性紡糸と名付ける）することにある。まだ、紡糸を行なうまでのほんの一部の基礎実験に入ったばかりであるの

で、今後一層実験を押し進め、紡糸に新しい1ページを印すよう夢見ながら研究を続けている。

これらの研究は、高分子化学国際シンポジウム（東京一京都・1966）ならびに国際レオロジー討論会（京都・1968）で発表した。また、高分子化学:24, 577, 711, 715 (1967), 25, 55, 63, 552, 577, 582, 634 (1968) に記載されております。

昭和42年度上田繊維科学振興会助成・成果報告

家蚕卵における胚子発育機構に関する研究

武 井 隆 三

胚子はその発育を旺盛に行なうためには完全な呼吸代謝と、それと共軌する酸化リン酸化能にともなう高エネルギー代謝が要求されることが考えられる。そこで酸化リン酸化と機能的につながりをもち、ATPアーゼの活性を高めると思われる α -DNPやATPなどを用いて実験を行なった。

方法としては α -DNPの飽和水溶液を作りA区としこの水溶液に $5 \times 10^{-4}M$ のATPを加えたものをB区とし、さらにB区に $10^{-4}M$ のリン酸マグネシウム(MgPO₄)を加えたものをC区とし、それぞれの溶液の0.05~0.1 mlを化蛹2日目の雌に注射した。そして羽化したものに同一系統の雄を交配し、産卵したものの蛾区について休眠、非休眠などを調査した。

その結果、 α -DNP+ATP+MgPO₄区に非休眠卵蛾区がもっとも多く現われ、ついで α -DNP+ATP区、 α -DNP区となり対照区では非休眠卵蛾区の出現を認めなかった。

のかも知れない。

稲田先生は私が在学中、上田蚕糸専門学校で殖民政策を講ぜられた恩師である。北海道帝国大学出身の農学士で、男爵であることのほかはよく存じ上げないまま今日に至ったが、今、はからずも新聞報道によって先生の訃をきき感慨深く、謹しんで哀悼の意を表したいと思う。

先生は、当時非常勤講師として校長針塚長太郎先生が招聘されたものようで、東京から出張して集中的に講義をされた。試験はなく、論文、レポートの提出もなかったので30年余を経た今日、遠い記憶のはしに残っているだけである。

しかし瀟洒(しょうしゃ)にして颯爽たる風格はまことに貴族的であって、その垢抜けた講義は、開校以来の百ノートを使用された2、3の老教授とは対照的で、その頃上田では見ることも出来ないドイツ映画にふれ、ディートリッヒのゴシップを語られるなど、その余談も甚だ印象的であって楽しいものであった。

殖民政策でどういうことを教えられたか、今はすでに忘れ去っているし、当時のノートは悉く戦災で失ったので、思い出す方途は無いが、後年私が永い海外生活をすする一つの示唆を得たことは確かなようである。

私はいま故山に遁業して、浅からぬ往時の因縁をおもひ、彫磨たる恩師の眠り安らかならんことを祈りたいのである。

なお近着の朝日年鑑には次のような記載がある。

稲田昌植 明31.11.19・北海道・北大、東大・農政学、元貴族院議員、スキー連盟会長、世田谷区弦巻5-6-27 清佳莊(429-6987)

(いでのまさお・蚕23・京都府民生労働部勤務)

稲田昌植先生の訃をきく

出 野 正 雄

稲田昌植氏(まさたね=元貴族院議員)

28日午後10時5分、心不全で東京・世田谷中央病院で死去、79才。兵庫県出身、自宅は東京都世田谷区弦巻町5-15-3、葬儀の日取りは未定。喪主は長男植樹氏。元男爵。全日本スキー連盟の初代会長。

これは昭和43年11月29日付京都新聞の記事である。稲田先生などと申しても、おぼえている人は非常に少ないのではないと思う。思い出してもらうのも困難である

故佐藤良太郎君を追悼す

絹 村 貢

佐藤君は10月15日忽然として逝去され、77年の人生の幕を閉ざされた。洵に愁傷の至りである。同君は家庭的には晩年恵まれたとは思えない。長女は戦災により失われ、愛妻は戦後夭折されて、唯一人の長男のみとなり、然も長男の職業の關係上同居も出来ず、独り遠州森町に住居して居た。本年夏に例により石松会を佐藤氏宅に開催し、三重の白沢幹君を招待して頗る元気に飲み且つ談笑し欲を尽した。散会に際して今秋会合する時には、蒲生、倉沢両氏を招待致そうと一同合意した。其の時などは元氣潑刺、同席せる者佐藤君はいつも元氣だな一番長

寿するだろうと、異口同音氏を讃えた程であった。全く佐藤君の今日迄病氣したと言うことを知らない。斯様に強壯であった、佐藤君が9月末頃発病し、横浜に住む長男に伴われて、自動車を以て上京し大学病院に入院せられた。本人は已れは1ヶ月も経てば全快して帰って来るから、入院したということを知らぬなど、長男に言渡した由、従って吾々僚友は殆どの者がそれを知るよしもなかった。然し私は10月17日大箸政平君を通して始めて知ったと言う次第である。

日常強壯な佐藤君のことであるから、不日退院出来る位に思っ居た處、18日に至り大箸君よりの音信が到着したので、顧ると佐藤君は去る15日夜逝去され、葬儀は17日鶴見の総持寺に於て営まれるとの報道であった。吃驚仰天し暫し茫然自失の状態であった。過去のこと等が雲烟過眼するのみ。只々哀悼の意を表し、家内と共に只管御冥福を祈るのみであった。

次で同月19日午前中大箸君よりの音信を受けた、それには本月20日午前11時森町西光寺に於て納骨式並に告別式を営まれるとの電話を長男政良氏より受けた、就ては私(大箸)は石松会を代表して参列するが、貴公の御都合は如何との御尋ねに対し私も是非参列するとの返信を急報した。

当日の式には同僚大箸氏、近藤正己夫妻と私4人が参列した(戸倉君は婚姻臨席の為、堀本省一君は輪禍の為入院加療中で欠席)。

式には長男政良氏夫妻外、近親者縁者多数参列し、西光寺住職、客僧隨松寺住職水谷菊圃導師に依り厳かに営まれ、正午納骨式を終了した。式後追悼会が催された。其の席上故人の嗜好で自から造られた梅酒(1ヶ年分約40ℓ位造られた由)が一同に対し披露を兼ね、すすめられた。私は其の梅酒を飲むに当り、曾ては石松会員に対し故人が自慢気に出されたもので、僚友一同これを称えて、愉快に飲み且つ長寿を祈り談笑して別れた、其の残酒が短期間の内に皮肉にも今は幽明境を異にし、この式場で飲むに至ったとは誠に感慨無量であり、如何に人生の儚きかをつくづくかこち、真に沈痛の情堪え難きものがあつた。席上聴く処によると佐藤君は毎年身体の精密検査を受けて、安心していた様だが、東大病院で解剖の結果肝臓ガンであつて、既に3ヶ年前後に発生したものであると、発表されたとのことであるが、本人はガンであつたことを知るや識らずや、1ヶ月も経過せぬ間に急激に生命を絶たれると言うことは、実に恐ろしき悪症であることが、今更ながら感ずると共に、簡単に発見出来て治癒する様医学の進歩を願う次第である。

佐藤君は大正4年母校を卒業し爾來主として県行政方面に活躍せられ、幾多の功績を残され、昭和17年頃初、

戦事国策会社として日本蚕糸統制株式会社の創立に際し其の招請に応じて、前職を辞して就職し、会社参事としてその手腕を振られておつたが、終戦に伴い会社は解散命令によって閉社せられ自然退職となり、郷里森町に帰られ現在に至つた。郷党に在つては、公的方面には殆ど就かず、専ら悠々自適の生活を過ごしておつたが、間もなく仏典方面の研究に没頭され仏教書籍を抜粋しその景は大学ノートで数十冊の多きに及び、この方面の新版書籍は努めて購入し渉猟せられた様で、相当の仏教通になつたと思われる。近郷寺院を訪問して寺院主幹と論争したことも屢々あつた様で、納骨式に於て説教せられた、老僧水谷菊圃氏も式の席上佐藤さんが、時々誹謗され私も度々教門で叱責されたこともあつた、熱心なものだつたと称揚されておつた。尚後輩同窓諸彦に対しても、仏法教示の文書を回覧し、諸彦より欽心を以て迎せられたことも相当ある様に聴き及んでいる。

吾々石松会の会食の場合に於ても口を継いで仏教を説き述べられ、その六つヶ教辭句には、一同閉口し、又始まつたと言う様な次第であつて、とに角仏教研究には熱心で本人の性格上からは違々、考えられぬこともないでけたい。

同人は予め自分の戒名を生前に選定せられてあつたので、そのまま左記を使用したものである。「殿上院廓然良燦居士」

佐藤君は一般からは非常に磊落な人と感じられていた又事実左様でもあつたが、然し一面相当細心の注意を払い事を処理したことも見逃がせないと思つている。又本性は極めて真面目であつて、加うるに仁侠的の気分を持ち道義に副わぬ行為とか、邪悪と思はれることに対しては、徹底的にこれを排撃せんとする気分は、人一倍強く、又半面困惑、もしくは困窮せる者に対しては突飛と思はれる程度迄、これを援助すると言う人間味豊かな面も強くあつた。趣味と言う特別のものは余り無かつたが左利きの方は相当なもので、最近に於ても酒量の程度はかなり多く、然も長時間嗜みつつ愉快に飲むと言う型で会食の際の如きは、談論風発止まる処を知らず、話題は尽くる処なしと言う風で、呵々大笑し愉快な場面を醸成する快男子型でもあつて、時には深更に迄及び飽くことを知らなかつた。大いに飲んだ翌日は、早起きして湯豆腐で又飲み始めると言う、極めて呑気な半面もあつた。

役人生活時代に在つても、上司にも下僚にも好感を持たれ、一般有力者方面にも非難されることも少なく好感を持たれ、各県在任中は種々の逸話もあるが茲には省略し、以上追悼を記し謹みて哀悼の意を表わし、御冥福を御祈りし欄筆する。

(43年10月25日稿)

長男佐藤政良氏住所 横浜市神奈川区子安通3の394

学園あらかると

山々に雪が積もりいよいよスキー、スケートのシーズンとなった。学内でも例年のようにいろいろの行事が計画されている。

スキー大会・講習会

繊維学部スキー同好会と教職員組合共催のスキー教室も今年で第8回を数え、1月13日から3日間菅平スキー場で開かれる。最終15日には技能検定のバッジテストが行なわれる。続く16日から4日間、学生のためのスキー講習会も菅平で開かれ、2月に入れば職員一学生対抗のスキー大会、学部対抗スキー大会などが開かれるほか、スケート講習会も各地で開催される。

学内人事 (43年12月1日発令)

長島 栄一 教授に昇任 (織農)

信州大学学生部長

医学部教授の田崎忠勝氏が43年11月28日の評議会で推薦された。

44年度繊維学部学生募集要項

今年の入学試験は3月23日、24日の2日間行なわれる。募集人員は繊維農学科30名、繊維工学科50名、繊維工業化学科45名、繊維機械学科50名、繊維化学工学科40名で、試験場は繊維学部と大阪大学教養部の2ヶ所で行なう。

学内道路の舗装整備

従来雨がふるとぬかってどろんこになった校内道路の舗装工事もいよいよ着工されることになった。メイン道路は3月までに舗装完了の予定。これにともない緑地帯の造成、植樹の整備、照明灯の設置などもおこなわれて、学内はいちだんと美化される。

機械化養蚕室新嘗

かねてから申請中の上記養蚕室は文部

省の予算化を通過し、12月基礎工事、3月には完成のはこびになった。この蚕室は農場の東側に南面し、面積約120坪、平屋建てで、部屋数は5室、近代的な設備を具える。これによって、当学部で開発した省力養蚕の機械(田中茂光教官)の研究がいちだんと活発になり、養蚕業界に貢献するところが多大となるだろう。

柳沢延房先生退官記念品贈呈式

今春当学部を停年退官された柳沢延房先生に対する退官記念品募金の結果同窓ならびに各方面からの多大のご賛同をえて、去る11月1日に当学部第1会議室で実行委員の皆様参列のもとに記念品贈呈式が挙行された。

一志委員長の経過報告、白樫学部長挨拶について、万場拍手のうちに記念品の贈呈が行なわれ、引つづき柳沢先生より関係各位に対してくれぐれもよろしくと謝辞があり終始なごやかな雰囲気の中に贈呈式を終了した。



千曲会員名簿発行

千曲会員名簿が発行になりました。

B5判539頁横組で画期的な出来栄です。

当初400頁を予定のところ支会別を附録したので539頁と35%増加の大冊となり、名簿頒布価格は500円、送料100円、計600円です。まだ注文購入しない方は直接本会に振替等で600円送金お求め下さい。

昭和44年1月1日

社団法人千曲会勤静部

名簿発行委員長 松 沢 秀 二

上田寸描

上田橋の新設いよいよ着工

古さと交通禍で有名な上田橋もいよいよ新設されることになった。新橋は現在位置より上流20mのところにかける予定で、さいきん橋ゲタの工事が始められた。ことし中には基礎工事が終わり、来年度にはめでたく竣工の予定。

菅平ダム竣工

土合から菅平に向う途中の大洞地籍に多目的ダムが着工されていたが、このほどようやく完成、湛水が始められた。自然の中に人工の美が加味されてこれからは観光の意義も深くなるだろう。これで上田付近のかんがい用水と上水道は当分の間心配がなくなった。

菅平への有料道路着工

滋野付近から菅平高原に入る観光道路がこのほど着工された。これが完成すると、旧来東京からのお客は上田から約1時間半かかったのに、20分間短縮されて菅平に行くことができる。もちろん有料道路になる。

第29回千曲会定期総会記事

第29回定期総会は恒例の11月23日勤労感謝の日午前10時から母校第1会議室で開かれた。出席者は26支会から代議員、役員合計83名、委任状は28名であった。

総会次第

1. 開会のことば 関博夫理事
2. 理事長挨拶 小林運美理事長
3. 名誉会長挨拶 白樫侃織維学部長
4. 議長選出 荒木喬議長
宮下久吉副議長
5. 報告
 - (1)一般会務報告 関博夫理事 (2)厚生部報告 田口亮平副理事長 (3)動静部報告 松沢秀二理事 (4)会報部報告 小山長雄理事 (5)利用部報告 石川博理事 (6)母校火災復興資金報告(1)で一括報告 (7)財団法人上田繊維科学振興会報告 北条舒正理事
6. 議事
 - (1)昭和42年度歳入歳出決算について (本部提案)
 - (2)定款変更による昭和43年度歳入歳出決算について (本部提案)
 - (3)厚生部活動資金の設定について (本部提案)
 - (4)昭和44年度歳入歳出予算について (本部提案)
 - (5)賛助会員の推挙について (本部提案)
 - (6)会員の表彰について (本部提案)
 - (7)役員の変更について (本部提案)
 - (8)全支会を地方ブロック別に編成し、本部理事全員を個人別にこの地方ブロック別に、その育成、指導にあたらせる (山陽支会提案)
 - (9)定期総会開催前後の日程で、全国支会長会議を開催する (山陽支会提案)
 - (10)支会長、支会評議員の選挙および本部理事、監事の選挙の民主化について (山陽支会提案)
 - (11)会員費年額500円を800円に引上げる (山陽支会提案)
 - (12)その他
7. その他
 - (1)蚕糸教育の改善についての懇談
 - (2)支会現況報告、海外留学、視察報告
8. 閉会のことば 母袋副理事長
総会終了後、午後6時より香書軒にて懇親会がおこなわれた。
総会討議概要
議長選出は事務局一任の動議により議長に東京支会荒木喬氏を、副議長には熊本支会宮下久吉氏が選出された。

議事録署名員には荒木議長の指命により中沢賢、滝沢達夫、小林勝の各氏が決定した。報告事項について各部担当理事から詳細に行なわれ議事に入った。

昭和42年度歳入歳出決算について土屋幾雄理事から説明があり、山崎寿監事から監査報告があった。

兵庫支会岩本賢次氏、今回発行の会員名簿の配布方法についてと、名簿発行についてとった広告が重複した面があったので今後広告を取る件については支会と連絡をとってやって欲しい希望事項があった。

松沢理事、会員名簿は支部で希望をとりまとめて申込んでもらいたい。

上小支会蒲生俊興氏、宮城支会山本友之丞氏、竜川支会野口新太郎氏等から厚生部活動資金の設定について詳しい説明を求められると同時に扱い方について希望があった。なおこれについては田口理事より下記の説明があった。基本造成金の出所については会員の拠金寄付による母校火災復興資金の収支差引額は3,487,469円であり、母校の中入れによる校内道路整備に寄付する額は1,977,725円、この差引残額1,509,744円を当てる。これに特別活動資金の43年度末残額224,341円を加え、これらより生ずる利子金121,308円を厚生部活動資金とする。主な使途としては中高年層の再就職斡旋および地位安寧向上等会員の福利厚生等を考えている。また千曲会員拠金者各位に対し使途変更の諒承をどのようにして求め、報告するかの方法について種々意見があったが、結局千曲会報を通じて行なうことに決定した。

続いて昭和44年度歳入歳出予算について説明と監査報告があり承認された。

賛助会員の推挙については、関理事の説明に続き、次の諸氏が挙げられた。

久我修、竹田邦彦、近田敦雄の各氏 (以上教官) 宮原大正治、宮下貴森、小岩井公明の各氏 (以上事務官)

会員の表彰については、次の通りである。石塚虎治郎 (近畿支会) が本会理事、京滋支会長等多年にわたり尽力された功績により、船後勇平氏 (現在千葉支会) が本会評議員、茨城支会長等を長年兼任された功績によりまた山本友之丞氏 (宮城支会) が、本会評議員、宮城支会長として、多年活躍された功績により千曲会より表彰された。また上田繊維科学振興会の表彰は、製糸機械の自動化に多大な貢献をした、恵南式S型自動繰糸機の発明者山田斧一氏に与えられた。

役員の変更については、関理事の説明に続き、岩本賢次氏他12名の選挙委員が選ばれ、別室で慎重討議の結果次の諸氏が選出された。

理事 (30名)

小林運美、母袋忠右エ門、北条舒正、山崎寿、江口晴雄

加藤秀次郎, 笠原正己, 香樹久雄, 江野村一雄, 齋藤義臣, 竹内善吾, 田口玲, 水口米雄, 飯田一郎, 小林三郎, 永井千治, 西沢正一, 井沢薬子, 戸塚一, 滋野文雄, 石川博, 小林尙一, 関博夫, 土屋幾雄, 小山長雄, 篠原昭田中茂光, 松沢秀二, 竹田寛, 白井要範

監事(5名) 井沢喜三, 青島二郎, 白井美明, 町田博坂口育三

相談役に香山清和, 和田晋の両氏を推挙した。

なお第8, 10号議案にも関連して, 田口理事より役員構成は学内をひかえめにし, 学外を増した方が, 地方支会の育成強化に有効であり, また学内事情からみても望ましいという要望があり, 今回は, その線に沿って行なわれた。

さらにこれに関連して母校在學生と千曲会との関連について, 二・三の意見が出され, 今後の研究課題として理事会に一任した。

会員会費増額の件に対しては, 全般に, 昨年増額したばかりなので今回は見合わせる方がよいという意見が多く討議の結果否決された。

以上で議事討議を終り, 懇談として蚕糸教育の改善について, 自由な意見がかわされた。

昭和42年度社団法人千曲会歳入歳出決算書

歳入決算額 金 1,450,350円
 歳出決算額 金 1,407,937円
 差引高 昭和43年度繰越金 金 42,413円

昭和43年11月23日

社団法人千曲会理事長 小林 運 美

項 目	歳 入		増	減	備 考
	本年度 予算額	本年度 決算額			
1.前年度繰越金	60,000	104,784	44,784		
2.会 費	1,045,000	918,443		126,557	{858名 {203名
3.入 会 金	200,000	204,600	4,000		204名
4.基本財産利子	114,300	121,182	6,882		貸付信託 電信電話 債券
5.楓荘施設使用料	20,000	11,900		8,100	13件88名
6.広 告 料	35,000	66,500	31,500		
7.雑 収 入	10,200	18,541	8,341		
(1)普通預金利子	5,200	4,741		459	
(2)名簿売上代	1,000	1,150	150		
(3)雑 入	4,000	12,650	8,650		絹糸の構 造代外 佐藤利一 先生叙勲 祝寄付
8.寄 付 金	1,000	5,000	4,000		
合 計	1,485,500	1,450,350		35,150	

項 目	歳 出		増	減	備 考
	本年度 予算額	本年度 決算額			
1.会 議 費	169,500	167,991		1,509	
(1)代議員旅費	94,000	93,180		820	48名
(2)総会需用費	20,500	20,150		350	
(3)役員旅費	28,000	27,890		110	31名
(4)役員会需用費	27,000	26,771		229	
2.事 務 所 費	336,100	316,531		19,569	
(1)給 料	185,000	185,000			書記給料
(2)備 人 料	10,000	9,640		360	
(3)旅 費	64,000	63,450		550	
(4)役員交際費	10,000	8,940		1,060	
(5)賞 与		100		100	
(6)備 品 費	2,000	1,200		800	アテナ機 修理
(7)消 耗 品 費	18,000	10,901		7,099	
(8)会費集金費	15,000	12,640		2,360	振替用紙 外
(9)通信運搬費	20,000	12,885		7,115	切手, 電 話電報料
(10)雑 費	12,000	11,875		125	新入会員 懇談会費
3.事 業 費	515,900	506,735		9,165	
(1)会報発行費	430,200	421,495		8,705	
1)編 集 費	3,200	3,180		20	No.165 ~No.168
2)印 刷 費	250,000	249,000		1,000	
3)送 料	163,000	162,025		975	
4)需 用 費	14,000	7,290		6,710	封筒
(2)出 版 費		100		100	
(3)会 員 名 簿 費	50,000	50,000		—	
(4)調 査 費		100		100	
(5)慶 弔 費	35,500	35,240		260	
4.基本財産施設費	36,000	25,650	4,000	10,350	楓荘
(1)備 品 費	5,000	1,450		3,550	委託管理 費
(2)管 理 費	14,000	8,270		5,730	
(3)光 熱 水 費	11,000	10,210		790	水料道, 電気料
(4)公 租 公 課	6,000	5,720		280	固定資産 税
5.基本財産造成費	200,000	204,000			新入会員 204名
6.会費納入交付金	208,000	168,410		39,590	22支会
7.予 備 費	20,000	18,620		1,380	
合 計	1,485,500	1,407,937		77,563	

昭和42年度基本財産状況

基 本 財 産	基 本 財 産 保 管 状 況
固定資産 1,114,600円	
不 動 産 1,114,600	長野県北佐久郡御代田町大字草越 字向原119の35
土 地 563,550	663坪 (昭和37年12月4日登記済)
建 物 551,050	木造平家建瓦葺 12.5坪

流動資産	1,589,381	三菱信託銀行貸付信託 720,000円 三菱信託銀行金銭信託 9,101 電信電話債券額面 (98万円)
基本金	1,589,381	860,280
合計	2,703,981	

昭和43年度社団法人千曲会歳入歳出決算書

(定款変更のため43.4.1~43.9.30までの期)

歳入決算額	金 920,919円
歳出決算額	金 716,760円
差引残高(次年度繰越金)	金 204,159円

昭和43年11月23日

社団法人千曲会理事長 小林 運 美

歳 入					
項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	増	減	備 考
1.前年度繰越金	88,000	42,413		45,587	
2.会 費	550,500	610,450	59,950		460人 199人
3.入 会 金	200,000	200,108	108		199人
4.基本財産利子	29,000	36,667	7,667		貸付信託 電話債券 楓荘15件 106人
5.基本財産施設料	20,000	17,812		2,188	
6.広 告 料	30,000	2,000		28,000	
7.雑 収 入	5,600	11,469	5,869		
(1)普通預金利子	2,600	2,419		181	
(2)名簿売上代	1,000	200		800	
(3)雑 入	2,000	8,850	6,850		テキスト 代外
8.寄 付 金	1,000			1,000	
合 計	874,100	920,919	46,819		

3.事 業 費	287,100	220,254		66,846	
(1)会報発行費	211,990	145,674		66,226	
1)編 集 費	2,000	1,820		180	委員会費
2)印 刷 費	117,000	82,500		34,500	No.169号
3)送 料	82,000	49,054		32,946	
4)需 用 費	10,900	12,300	1,400		封筒 8,000枚
(2)出 版 費	100			100	43年度 発行名簿 補助
(3)会 員 名 簿 費	50,000	50,000			講演会補 助
(4)講 演, 講 習 費	10,000	9,950		50	振興会補 助
(5)研究補助費	5,000	5,000			研究会
(6)調 査 費	3,000	3,130	130		
(7)表 彰 費	100			100	
(8)慶 弔 費	7,000	6,500		500	楓荘施設 費
4.基本財産施設費	38,000	30,514		7,486	ペランダ 修繕 (家(佐工) 管理人 電料料, 水道 固定資産 税 新人会員 神奈川支 会外
(1)備 品 費	5,000	5,190	190		
(2)管 理 費	14,000	8,464		5,536	
(3)光 熱 水 費	6,000	6,200	200		
(4)公 租 公 課	13,000	10,660		2,340	
5.基本財産造成費	200,000	200,108	108		
6.会費納入交付金	120,200	86,760		33,440	
7.予 備 費	10,000			10,000	
合 計	874,100	716,760		157,340	

昭和43年度基本財産状況

歳 出					
項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	増	減	備 考
1.会 議 費	39,200	38,220		980	
(1)代議員旅費	100			100	
(2)総会需用費	100			100	
(3)役員旅費	30,000	29,940		60	26人
(4)役員会需用費	9,000	8,280		720	
2.事 務 所 費	179,600	141,094		38,506	
(1)給 料	120,000	100,000		20,000	書記給料 タイプ印 刷
(2)傭 人 料	4,000	3,640		370	
(3)旅 費	30,000	14,800		15,200	5支会
(4)役員交際費	4,000	3,581		419	
(5)賞 与	100			100	
(6)備 品 費	1,000	790		210	郵便番号 印外
(7)消耗品費	5,000	5,593	593		
(8)会費集金費	4,500	4,082		418	領収証
(9)通信運搬費	10,000	7,608		2,392	切手, 電 信電話料
(10)雑 費	1,000	1,000			

基 本 財 産	基本財産保管状況
固定資産 1,114,600円	
不動産 1,114,600	長野県北佐久郡御代田町大字草越 字向原119の35
土 地 563,550	663坪 (昭和37年12月4日登記済)
建 物 551,050	木造平家建瓦葺 12.5坪
流動資産 1,789,489	三菱信託銀行貸付信託 780,000円 三菱信託銀行金銭信託 8,464 電信電話債券額面 (113万) 1,001,025
基本金 1,789,489	
合 計 2,904,089	

昭和43年度特別活動資金報告

収入 276,101円 支出 51,010円 残額 224,341円

昭和43年度部分林管理費報告

収入 107,161円 支出 4,730円 残高 102,431円

母校火災復資金報告

収入4,166,612円 支出 494,363円 残高3,672,249円

母校寄付 2,162,505円 { 学外会員 1,977,725円
学内会員 184,780円

厚生部活動資金設定 { 母校火災復興資金 1,509,744円
1,734,085円 { 特別活動資金 224,341円

—母校火災復興資金の処分についてご諒承お願い—

昭和37年1月母校旧本館の焼失のさい、焼失校舎の復興の1日も早いことを願ひ会員各位に火災復興資金の募金をお願いしましたところ1507名の会員から母校愛の融金を頂きました。しかし、幸い文部省によって既に会員各位のご存じのとおり立派な近代的講義室、実験研究室の復興が出来ました。そこでこの融金は母校の発展に寄与する施設に寄付するか否か論議のまま2~3年を経過しました。たまたま学部構内の道路が悪く殊に末端道路は雨降りにはどろんこの状態でありますので、この面の整備に融金の2分の1に、この間の利子を加えた金1,977,725円を寄付することになり

ました。融金の残額金1,509,744円は本会厚生部活動資金に設定し、その利子によって会員就職斡旋、特に中高年層の再就職等の活動費にあてて会員の福利厚生を計ることになりました。ご寄付いただいた会員にはご了承をいただき礼状を添えて結果報告をいたすのが本義であります。先般本会総会において千曲会報に掲載してご諒承を得ることになりましたので何卒ご諒承下さいますようお願いいたします。

昭和43年12月23日

社団法人千曲会理事長 小林 運 美

昭和44年度歳入歳出予算額

歳入予算額 2,098,500円 歳出予算額 2,098,500円
差引額なし

上田繊維科学振興会42年度歳入歳出決算書

歳入 337,770円 歳出 234,556円 残高 103,214円

上田繊維科学振興会43年度歳入歳出決算書

歳入 302,000円 歳出 302,000円 残高なし

第29回千曲会出席者名簿

(順序不同敬称略)

- 茨 城 前沢康雄
- 三 丹 菊地六郎
- 近 畿 林 利金, 石坂虎治郎
- 石 川 山口 徹
- 高 知 渡辺真澄
- 熊 本 宮下久吉
- 更 埴 鷹野貞雄, 湯原 諱, 宮城 博, 伊藤嘉三郎
- 京 滋 宮沢 岬
- 諏 訪 小松忠幸
- 岐 阜 山田栄市
- 神奈川 内藤則雄
- 北佐久 大山 融, 土屋茂一郎
- 東 京 小林運美, 久保田良重, 斉藤義臣, 荒木 喬
- 群 馬 馬場忠貞, 浜井寿夫
- 兵 庫 岩本賢次
- 上 小 北条舒正, 青沼 茂, 関 博夫, 田口亮平, 白井汪芳, 井沢喜三, 蒲生俊興, 山崎 寿, 島田潤一, 香山清和, 小林俊一, 田中一行, 白井美

- 明, 山崎啓録, 竹田 寛, 小山長雄, 土屋幾雄
- 矢彦沢清允, 山口定次郎, 松沢秀二, 倉沢美德
- 佐藤 一, 竹内彦保, 小林勝, 荻原清治, 柳沢幸男, 松尾卓見, 山浦和男, 西沢正一, 吉平福紀, 大谷隼人, 石川 博, 林 貞男, 和田 晋平川清一, 竹内善吾, 押金健吾, 茅野清三郎, 田口 玲, 坂口育三, 中沢 賢, 猪坂直一, 伝田静夫, 白井要範

- 北 信 中沢 一
- 安 筑 永井千治, 河野太郎, 水沢久成
- 竜 川 野口新太郎
- 愛 知 西沢 孝, 柴田 豊, 永田広夫, 林 博之, 杏掛久雄
- 千 葉 船後勇平
- 山 陽 江野村一雄
- 福 井 西原美登
- 宮 城 山本友之丞
- 福 島 安部 和

賛助会員=白樫 侃 (学部長) 会田源作

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4
堤 第 一 ビ ル 4 階
東 京 (591) 0764・0765

井 理 士 浜 香 三
井 護 士 中 猪 之 助
千 曲 会 員 福 島 鋼 治 郎
千 曲 会 員 長 島 谷 実

本部だより

さん

監事会開催

11月15日監事会を開催した。山崎寿坂口育三、町田博の各監事および田口副理事長、小林尚一理事、土屋理事、事務局から白井理事出席して昭和42年度歳入歳出決算定款変更による昭和43年4月から9月末日の決算および基本財産管理状況、母校火災復興資金、菅平部分林管理費、会員名簿発行費、利用部事業費について監査し午後5時30分無事終了した。

総会準備役員会開催

第29回定期総会事務分担等準備のため学内役員会を開いた。当日出席者は田口副理事長、関、小林、小山、坂口松尾、山口、松沢の各役員であった。

常務理事会開催

11月30日常務理事会開催。出席者は竹内、西沢、北条、関、小山、竹田、松沢、篠原、白井、田中の各理事で、竹内善吾理事が議長として先の総会で理事会に一任された事項について協議した。なお理事会は12月17日開催することに決定した。

千曲会費完納者

会費通算40回完納した会員は次のとおりです(11月～12月15日の間)。

多年本会向上発展のためご協力いただいたことを感謝します。

なお完納者は内規により以後会費免除となります。

- | | |
|-----------------|-----|
| 松野 正一 蚕1 (T3) | 神奈川 |
| 原田 種亀 蚕9 (T11) | 福 島 |
| 山崎 寿 蚕14 (S2) | 上 小 |
| 三輪 貞徳 蚕13 (T15) | 静 岡 |
| 伊藤 幸雄 蚕22 (S10) | 近 畿 |
| 角替 赴夫 蚕15 (S3) | 福 島 |
| 宮坂美寿雄 蚕16 (S4) | 諏 訪 |
| 関 幸作 蚕18 (S6) | 諏 訪 |
| 伊藤 常松 化4 (S20) | 北佐久 |

長崎鼻パーキングガーデンを紹介
鹿児島といえば桜島と指宿温泉を知らない人はいないが、ここにやってきた旅行者や新婚カップルがどうしても足を伸ばすところに長崎鼻と間聞岳(薩摩富士)がある。太平洋の直波を受け止めている文字通り本土最南端の鼻ツ先である。いくところまでいきたいのが人情(又は本能)、まことに地の利よろしく、その一角に長崎パーキングガーデンがある。入場料100円也(同窓はタダ)を支払って園内に入れば丘あり、池あり、島あり、砂丘あり。芝生を踏んで歩めば椰子の木、フェニックス、サボテン、バナナ、ソテツなどとつもない大木がすくすくと伸び椰子の葉で葺いた家々(売店)が点在し小さな島々には熱帯産の動物が放し飼



いにされている。手なが、尾ながざるペリカン、フラミンゴ、インコ、カンムリ鶴、野猪、ライオン?……等々その他数十種の珍動、植物が集められていて夢のような南国情緒に誘われる。そしてこの園長さんが大先輩の中山吉二さん(蚕12、小泉、山口両先生らと同期)であることを皆さんに報告したいわけである。若い頃はものすごく熱血漢だったそうだが、現在は実に温厚な人格者、電話で連絡して訪ねると実に温顔、友の遠くより来る、の心持ちで上田の卒業生ならどんな知らない方でも迎えて下さる。ついでに中山さんは指宿温泉街に住居をもたれ、市民から先生先生で通っている大ボスである。宿をとる場合は一流ホテルにタダ

又は安く話をつけてくれる。筆者も遠慮なくご馳走になったことは申すまでもない。みなさんも是非一度おためしあれ……この度鹿児島に旅して、桜島の迫力、西郷どんの偉大さ、土地の人達の素朴な人情、おはら節、いも焼耐加えて先輩の温情等々……いろいろなものにふれて、鹿児島は生涯忘れられない旅路の一夏となった。もっといいことがあったんじゃないかって……ええそれは内緒 (田中茂光)

我が父を語る

戸 倉 八 峰

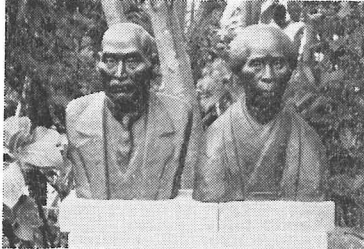
明治百年記念農林漁業先覚者顕彰に亡父惣兵衛は全国先覚者137人の内に選ばれた。八峰は被顕彰者の遺族代表として11月23日比谷公会堂で行われた式典に参列の光榮に浴した。手前味噌にならない様に父を語ることにした

我が父は明治元年12月30日静岡県遠州小笠郡初馬村(現掛川市)に誕生。貧乏人の子沢山5男5女の粗製乱造タイプ。幼名八峰はその長男、父没後襲名して惣兵衛、八峰はペンネームとして今日に至る。古い記録によると父は幼にして榛葉家から明治6年遠州磐田郡立西村石野(現袋井市)戸倉吉十郎の養子となり惣兵衛と改名した。養父吉十郎は若くして病死。後添えの養父惣四郎に仕え代々地主庄屋を務めた家系であった。

父惣兵衛は明治16年9月より東京遊学進文学舎にて英漢数を学び明治17年東京府立学校に転じ英学を専攻したこの時家郷の祖父惣四郎の不慮の不始末のため帰郷をよぎなくされた。祖父惣四郎は明治20年頃東海道線国鉄工事が始まり石野袋井駅長迄の約4キロの土工事を請負いた。柄にもない山気で大欠損を出し田畑全部を売り穴埋に当たった。約20町歩を1丁75円で処分した。父惣兵衛は年貢米1粒も入らぬので一家の生計も立たず遂に石野の庄家戸倉家もここに没落の悲運に陥った。帰郷した父は養父と菩提山に御料地4

丁歩を拝借して開墾畑作りに血のニジム苦勞をし精魂を尽くさざるを得ない境地に追い込まれた。整地畑作りし2・3年、桑苗を植え遠州地方には珍しい養蚕をやる事にした。

信州上田の塩尻蚕種家藤本から在来種を取りよせ蚕を飼い養蚕百年を我が家の家業と決意した時恰も明治23年国会開院に因んで河井重蔵代議士が父の養蚕所を国開園と名付親になっていた。その後蚕卵紙製造、更に蚕種業にまで直進した。明治25年には伝習生を募集し初年は27人明治29年まで70人の卒業生を出した。



亡老父妻胸像（昭和12年製作）

明治40年春父は交通便利な袋井駅前約1000坪の宅地を求め居宅蚕室蚕種保護倉庫その他を建てたので、蚕種を日本各地に送るのに便利となった。加えて筆者八峰を将来たねやの二代にと企図した。八峰は県立掛川中学に入学した。法学を学び弁護士となる希望にもえていたが、父の口説にて蚕種家の子として新設の国立上田蚕糸専門学校第2期に入学した。学校は1期の上級生と製糸科の2科のみだった。蚕兒遺伝学と父の執念の経済飼育今日の省力養蚕の先鞭桑育の実習改良に重点的研究をし3ケ年で卒業。父は卒業前から私に相談もしないで東京中野の国立蚕糸試験場に出頭して生理部長外山亀太郎博士に懇請して特別採用許可を得た。新品種創製などメンデルの法則を蚕に応用する研究をした。ここに3ケ年在勤、蚕種製造の新技術として多大の利益を得た。八峰24才帰家。これからが実業だ、開園園の看板男として上田蚕専卒業、蚕糸試験場の実地研究に習得した近代技術を活用すべく副園長

として真剣に取り組んだ。然るに父は八峰に曰く発祥地から袋井駅へ進出のための工事費負債を聞かされた。中野蚕業試験場時代の助手給から逆算すると年賦払で百年以上もかかる数字でオッタマゲル経済的苦悩、されど奮闘努力新品種1代雑種F₁などの近代化蚕種の実質向上販売面の努力で2・3年で返済の見通しがつき、努力精進の偉力に我ながら驚いた。それから12年間事業好調、設備の増設拡大全国に販売網を伸ばした。昭和4年父は袋井町長にそれから三選された。

我が開園園の栄誉は昭和5年5月天皇陛下ご巡幸の折本多侍従のご差遣の榮に浴し、昭和9年11月新宿御苑観菊会にご招待され両陛下にお目通りの光榮に輝いた。戸倉園開園長は昭和12年3月胃がんにて他界した。八峰はここで襲名と共に開園園長となり事業を承継した。この年の9月、遺族として父が生前養蚕業の改良発達に努め特に経済的飼育法につき試練研究すること多年万難を排して条育法を全国に普及したこと等220余字の表彰状と銀杯1箇を賞勲局より賜わった。

43年8月20日明治百年記念祭に当り農林漁業に多大の業績をあげた先覚者を顕彰すると公表された。7月24日の農林省から静岡県庁に県庁から私に内報として知らされた。又7月26日には前蚕糸試験場長横山忠雄博士から詳細な書状をいただいた。

11月中旬農林大臣から招待状を頂いた。

勤労感謝の日晴天日本晴、晴れやかな式場に亡父戸倉惣兵衛遺族の私二代惣兵衛は晴やかに顕彰状、農林漁業顕彰業績目録書並びに三ツ組赤色木杯とを授与されたのである。

最後に人間戸倉惣兵衛のバックボーンになったものは少年時東京遊学前に二宮尊徳門下の四天王の1人岡田良一郎代議士開設の私塾冀北舎で学び、たたきこまれた報徳精神による実学教育の賜であったことを附記する。

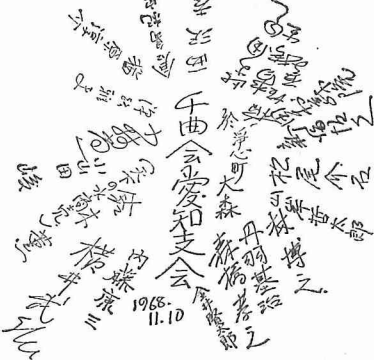
支会だより

愛知支会総会の記

11月の第2日曜とほぼ決められている愛知支会総会は本年度も、丁度それに当る絶好の秋日和の10日、午後1時より、母校から小林、沢路、両先生をお迎えして、名古屋市内の料亭、大森に於いて開催された。

小山田支会長の洒脱な挨拶、稲垣氏の苦しい予算の中でのやりくりの会計報告に引続き、前支会長香掛氏から8月、母校で開かれた「蚕糸教育改善についての懇談会」出席談があり、その広い見識と、将来への洞察深い母校愛から来る大先輩としての御意見は出席の若い会員に深い感銘を与えた。

小林先生からは学内学部内の近況の御報告があり沢路先生からは、特別に「絹鳴りの測定に関する研究」の御発表があり、例年にない催おして、繊維を学び、主として繊維産業に従事しながら、ともすると現業に追われて、理論的な解明を怠り勝ちな我々にとって非常に有益かつ励ましとなるお話であった。



引続いて宴会に移り賑やかな談笑の内にも懇親を主とする支会のあり方の提案（新海、鈴木氏）、会費徴収の苦心談（倉島氏）、会員の動勢把握、連絡の徹底の御意見（横井氏）等がありいずれも千曲会、母校を思う真情の発露であり、全く有難く、支会としても今後の運営に充分に反映したいと考えている。

余りの賑やかさに、さすが軽妙な名司会振りをもって会をリードされる田村氏も仲々、きっかけをつかめず、ようやくにして、小山田支会長以下の役員を万場一致留任と決め本部総会出席の代議員を選出し、寄書をして散会した。時は短い秋の日は既に没して6時近く、名残り尽きない幾多の組が赤い灯青い灯の基に、更に旧交を暖めるべく散っていった。

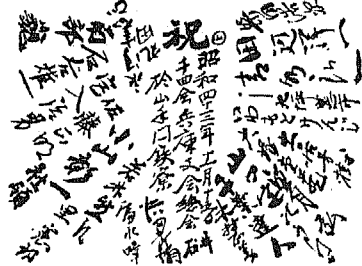
当日、出席の方々は下記の通りであるが、会員数に比べて少ないのは、まことに残念であり、次回には是非多数の御出席をお願いしたいものと思っている。(西沢孝記)

- 小山田 峻, 香掛 久雄, 田村 義隆
- 猶原 諒介, 稲垣 厚, 内藤 康三
- 倉島 紀富, 松尾 介石, 新海 恒久
- 伊藤 国雄, 鈴木 薫, 鈴木 勇
- 丹羽 基治, 森橋 孝之, 柴田 豊
- 畑 宜則, 林 博之, 金井賢太郎
- 西沢 孝, 横井 武紘

兵庫支会だより

菊薫る11月15日夕、恒例の本支会が神戸港の100万ドルの夜景を見おろす山手国鉄職員寮で開催された。

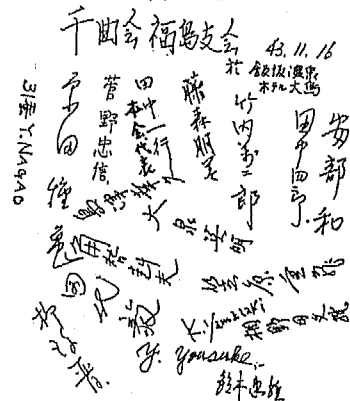
若本支会長の挨拶に始まり、経過報告、会計報告等の議事がとどろりなく行なわれ、本部より遠路はるばる御出席頂いた山口定次郎先生の本部および母校の近況等のお話しを詳細にお聞きした。次いで若林新一郎(糸10回)先輩の乾杯で宴会に入り、仕事の話し学生時代の想い出、上田の地、寮のこと、また片すみでは若い独身者に嫁探しの話しに夢中な先輩、結婚挙式の発表、飲むほどに酔う程に話しはつきず広き会場も和気満々、灘の生一本、ピ



ールを充分過ぎし時間の経つのが早いぐらい、大塚重蔵(糸8回)大先輩の音頭で母校、兵庫支会の発展を祈った万才に一応閑宴したもの、皆会場よりなかなか去り難く逐次解散。本年は大塚、若林、千葉達人氏等大先輩から加古川や伊丹の永津憲正、南部颯、柴田浩次、田辺洋一君など最近卒業された方々にも参集頂き、総勢24名母校愛にあふれた総会であった。

千曲会福島支会総会開催

秋も深まった11月16日(土)17日1泊飯坂温泉の最も奥のはずれにある、ホテル大島で開催致しました。畑の中



ある。すでに落調に入った真紅なもみじに覆われた山々が折り重って見える仲々よい眺望である。本部より田中一行先生が御多忙中にも不拘、且つ御遠路御出席下されて本部の御意見並に学部の問題点等のお話をうけ賜わる事が出来ました。会員出席者は17名で当支会会員数からは多い多とはいえないが、あいにく己むを得不得用件の方及び果面積が大きい為往復時間的關係者もあってみれば、まあまあ出席率だったと幹事は感謝して居ります。議事事項中特に問題になるのは各支会とも共通のなやみと思われるが、

2. 今後の支会運営費の問題

即ち逐年会費完成者は多くなる反面新卒支会入会者は殆んど皆無である

1. 千曲会々費は納めて居るが千曲会会報が何年にも郵送された事がない

と云う方。

3. 来期役員改選の事、及び来期の総会開催地を当県の浜通り方面とする、等々で幸い秋晴れの良い天気で大に且つ有意義に支会総会を開催する事が出来ました。

(昭和43年11月20日)

南佐久支会総会記

恒例の本支会総会は、11月16日供野さん(諏訪倉庫野沢支店長)のご集賑の送別を兼ねて、佐久市野沢町割蒸花月において開催された。

定刻老若20数人の会員が集り、議事に入り、経過報告、会計報告などが行われ、最後に本部より出席させて頂いた関より、千曲会ならびに母校の現況を説明申し上げ、とくに蚕糸教育改善問題については活発なるご意見を拝聴することができた。この間、宴酣となり同窓でなければ感じ難い和気霽々たる雰囲気に入り、肚から話し合うことができたことを感謝致します。今後とも千曲会ならびに母校のためご尽力の程をお願いして止みません。

なお久しぶりに佐久市を訪れた私は静かな落ち着いた景色の中に展開する道路、工場、家屋の建設などが見受けられ、その発展振りに驚いた次第です。

また先輩前島先生のご案内で、漁業組合における名産佐久鯉の出荷、豪族並木、野沢家などの屋敷を見物することができたことは、私にとっては意外の収穫であった。(関記)

安筑支会開催

今年も残り少なくなった12月8日松本市外浅間温泉の湯木屋旅館において開催された。

本会から竹田寛理事と坂口育三監事が出席した。

集った人は20数名であったが支会の運営について真剣な協議が行われた。

本会から、名簿のこと、会報のこと本会の事務分担、蚕糸教育の改善等に対する詳細な報告がなされ、これについて討議が行われた。また、支会の役員改選が行われ次のように決定された

支会長、永井千治(紡17) 副支会長、西村国男(蚕29) 大久保孝一(蚕29) 監事長、船田敏夫(蚕30) 舞沢俊治(糸34) 幹事長、山浦源太郎(学化5)

夕刻より懇親会に入り、古い先輩、若い人ともども夜のふけるのを知らず歓談し、有意義な支会総会となった。

(山浦記)

昭和10年卒業生の同期会

去る11月22日、信州別所温泉上松屋において、相変わらず御壯健にて、少しもお年を召さない壯者をしのごお元気な蒲生、倉沢両先生をお迎えして、1泊の楽しい会が開かれた。昭和10年の春の卒業と言えは蚕、糸それぞれ22回紡14回に当り、卒業以来33年間の歳月が流れており、この会は昭和35年の秋母校創立50周年記念の折にも開かれたことがあるがそれからでもすでに8ケ年の月日が過ぎてしまっていた。卒業以来初めて再会した者もあり、蒲生先生を同級生と間違えて先生に対し「君は誰れだ」と言うような珍問をする者も出て皆で大笑いする光景もあった。出席者は下のとおりである。

蒲生俊興先生、倉沢美徳先生、黒岩君雄(紡)、岡田重一、等々力宣安、戸田峻三、宮尾行雄(以上糸)青木幹夫、江口嘉清、小出椿五郎、半田義雄、西沢正一、坂口育三、横山忠夫、鈴木正一郎、伊藤幸男、山岸政治、大山融、小林茂男(以上蚕)

竜馬の土佐を訪ねて(高知支会)

快適な連絡船に運ばれて有名な土佐の高知を訪ねたのは真夏であった。

安岡美登課長様の手厚くご親切な出迎えを受けたことには全く感激した。

高知県の蚕業試験場、園芸蚕糸課等をご案内いただき、その夜は同窓会が開かれた。

さすがに、うまい魚と酒に上田の話しに花が咲き、歌い、踊り、時の経つのを知らなかった。

翌日は安岡様、児平文雄様(高知女子大)のご案内いただき、坂本竜馬の

銅像等を親しく見せていただいた。また、窪田盛大先輩様(蚕7回)が駅までお見送りを頂いたのには全く感激し、何とお礼申し上げて良いかを知らなかった。

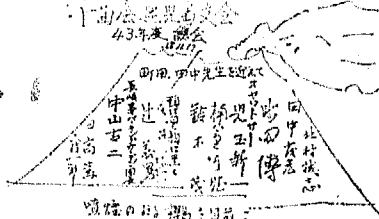
暖い同窓の心づくしを感謝しながらまた高知県の蚕糸業その他繊維業の発展を祈りながら海を渡った。

(竹田寛記)

次いで支会長の中山吉二、幹事の辻義男、書記の日高篤の留任を確認して懇談に入り焼酎と快談と笑いのうちに良い日によるこびつつ万才三唱をいたし散会しました。遠来の両先生には中山児玉の両人が南国の風物の御案内をいたしました。時間も少なく充分御満悦いただけなかったことを惜んでいます。(辻記)

鹿児島支会に出席して

亜熱帯植物が自生し、また栽培もされて異国情趣に溢れる南国、鹿児島で支部主催の大学農場研究集会和全国大学農場協議会の秋季大会がもたれることになって、始めて南九州を訪れることになった。



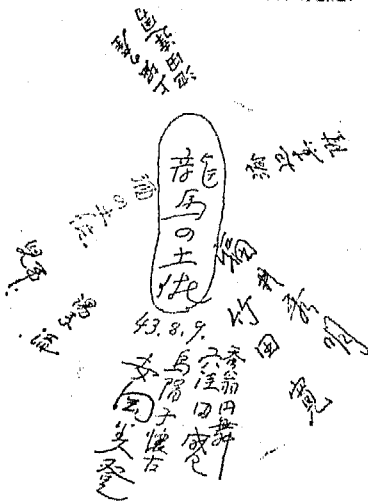
11月17日特急で西鹿児島駅に着いた

ところ、児玉氏が出迎えてくれた。同氏とは28年振りの再会であるから、直ぐに小生を探しあてられなかったようであったが、28年の歳月の間に見違えるほどに風格を具えた同氏に昔の面影を見出し小生が声をかけた。入佐氏も出迎えてくれて、会場「梅園」に着いたのは正午頃であった。

総会は辻氏の司会で開会された。小生と田中理事とで母校の近況と千曲会総会の議題などについて簡単にお話したところで、呑みながらと云うことで自己紹介をかねて順次各自の現況、抱負等を話されたが、各位それぞれに現在に生き甲斐を感じて元気一杯に活動されていることが肌で感じられた。

出席の各位は母校の将来方針に対して深い関心をもっておられた。忘れえぬ同窓のよしみを感じ最後に記念撮影をして散会となり、小生は児玉氏の案内で島津家旧邸の磯公園へ、田中理事は桜島へと、皆さんにお別れをした。

(町田博記)

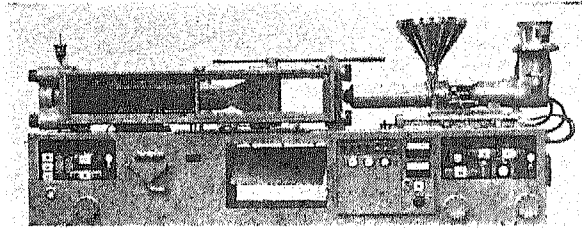


鹿児島支会総会

日に7色変る桜島の山肌が眼前に迫った秋晴れの11月17日、珍客を迎えて鹿児島支会総会をひらく運びになりました。

幹事の怠慢から2年越しの総会の時期になった頃、母校から町田博、田中茂光の両先生が鹿児島大学での附属農場長会議に御出席のため来鹿されるとの予報で急ぎよ招集された総会でした。会場は錦江湾の景観とハマチの刺身料理が自慢の磯の料亭梅園、出席は肩をたたき温情のこぼれる面々10名先ず中山吉二会長の開会と両先生の歓迎のことばについて町田、田中両先生から千曲会の経過報告、母校の動向等最近の上田をめぐる詳細をおききし、懐しみ喜び且つ驚くことが多かった。特に養蚕学科の今後については何等かの形で上田に残さないと長い伝統とそれに連なる千曲会員のきずなが崩解することから千曲会として存置方を強力に推進されるよう両先生にも要望しました。

日精の射出成形機は あらゆる産業で活躍しています



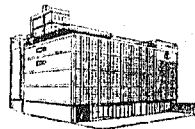
射出成形機の総合メーカー

NISSEI 日精樹脂工業株式会社

本社・工場 長野県坂城町 TEL坂城(2)3000
営業所 東京・大阪・名古屋・見利・広島・富山

信大教科書
自然科学書

工学書協会特約店
株式会社 西沢書店
上田原町 TEL 0024



皆様の百貨店

上田・中央 **ほてい**

編 集 後 記

あけましておめでとうございます。

本年もよろしく願いいたします。

小山は本号をかぎり編集委員の席をおり、バトンを竹田寛先生に引継ぐことになりました。2年の間ご愛情をうけましたことを深謝します。途中、健康を害しご迷惑をおかけしました。おわびします。

会報はたしかに現状では会の命脈です。同窓のきずなです。心に誓いつつ編集をしてきたものの、果して所期の目的をはたしたか、疑惧の念を抱かずにはおられません。ほんとうは編集子の私が「鈍刀乱麻」というよう

なクダナイ文で冒頭を汚すようではいけないのです。その意味では消極性を叱られても一言半句ありません。広告取材も同前です。こんどは新編集長のもと、一騎当千のつわものが控えておりますので、その心配はないと思いますけれど、編集子に文をかかせ、頁を埋めさせるようだとすれば、それは会員皆さんにも責任があると私は思います。どうぞ皆さんの手で育ててください。ここに厚情にたいし心から御礼を述べ、ごあいさつとします。

(小山長雄)

編集委員 小山 長雄、篠原 昭、小林 勝
滝沢 達夫、小笠原真次、平林 潔
中沢 賢、西沢 正一、白井 要範